

地域を守る力 消防団



今、消防団では、消防団員数の減少や高齢化が進んでおり、地域防災力の低下が懸念されています。大崎市の消防団の定員は二千七百四十五人ですが、現在約二百五十人が欠員状態となっています。

「自分たちのまちは自分たちで守る」消防団では、若い力が必要としています。

消防団員は、自営業や会社員などの職業を持ちながら、火災や災害などが発生したときに、出動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員に任命されると、制服や活動服が貸与され、年間一定額の報酬と出動ごとの手当が支給されます。

また、退職報償金支給制度（勤続五年以上）、公務災害補償制度、福祉共済制度など、さまざまな福利厚生制度があります。

女性の消防団員も、防火指導や応急手当の普及など幅広い分野で活躍が期待されており、男性の団員と同様に、女性の入団希望者も広く募集しています。

興味のある人は、最寄りの消防団員または市役所防災安全課（各総合支所総務課）まで問い合わせください。

◎ 防災安全課 ☎5144



大崎市の消防団演習が、七月五日、田尻中学校グラウンドで開催されました。

各地域から消防団員約千二百人が参加し、日ごろから訓練を積み重ねたポンプ操法や機械器具点検、分列行進といった演習が行われました。

消防団は、地域で発生した火災の消火活動、地震や風水害など自然災害の発生、または発生のおそれがあるとき、災害の防御や警戒、広報活動、そして万が一、住民に危険が及ぶ場合には人命救助に当たるなど、幅広い任務を担っています。

そうした緊迫した場面に遭遇しても、迅速で的確な判断と行動が取れるよう、訓練と日々の装備の維持点検をしています。



消防団は、江戸時代に義勇消防として発足したものがはじまりといわれ、さまざまな変遷を経て、昭和二十三年に消防組織法の制定により現在の「消防団」の枠組みが定められました。大崎市の消防団は合併と同時に設立され、四年目を迎えますが、消防団の歴史は古く、合併前のそれぞれの地域で、長い歴史を歩んできました。

消防団の持つ地域密着性、要員動員力と即時対応力といった特性を生かしながら、火災、風水害、震災などの災害対応はもとより、地域コミュニティの維持、振興にも大きな役割を果たしています。混乱した災害の場では、地元根ざした消防団員だからこそ、地域と消防署との重要なパイプ役になれるのです。

いざという時、職場から駆けつける 消防団員の素顔



祖父から三代受け継いだ消防団魂

火災や災害の現場で経験を重ねることで、責任ある行動を取ることの大切さが身についてきました。規律を守り、いつも本番を想定して、災害が発生しても慌てずに行動できるように心がけています。自分が生まれ育った地域を守るために、消防団で活動できることを誇りに思っています。



団員になって実感した人命の尊さ

訓練を通して、人命の尊さを実感しました。昨年の岩手・宮城内陸地震では、幸い地域内に人命に関わる被害は出ませんでした。しかし、災害が発生したらいち早く駆けつけるように心がけています。高齢化が地域でも進んできているので、若い仲間を増やしていきたいと思っています。

